

冬春期作型における良日持ち性ダリア エターニティシリーズの切り花特性



写真1 エターニティピーチ



写真2 エターニティシャイン

表1 良日持ち性ダリアの切り花特性

品種	収穫 本数 ^{z)} (本/株)	収穫 開始日 (月/日)	到花 日数 ^{y)} (日)	切り 花長 (cm)	最大 花径 ^{x)} (cm)	露心 花率 ^{w)} (%)
エターニティピーチ	15.5	11/ 8	61	109.2	12.8	0
エターニティシャイン	22.8	10/18	40	96.6	11.5	0
かまくら(対照)	23.3	10/18	40	98.4	13.2	7.8
黒蝶(対照)	14.7	11/ 2	55	120.4	17.9	35.2
ミツチャン(対照)	17.8	11/ 2	55	96.8	13.1	10.2

注) 定植日: 2021年8月2日 調査期間: 10月18日~3月31日

z) 収穫本数は、収穫時における奇形花および管状花が完全に露出した露心花を除く株当たりの収穫本数。

y) 到花日数は、最終摘心から1番花の収穫開始日までの日数。

x) 収穫3日後の花径を測定。

w) 収穫時に露心していた花の発生率。

表2 良日持ち性ダリアの日持ち日数

品種	処理区		
	蒸留水	GLA	GLA+BA
エターニティピーチ	9.3	10.5	11.1
エターニティシャイン	11.5	12.9	13.1
かまくら(対照)	5.1	6.4	7.7
黒蝶(対照)	5.5	7.2	8.2
ミツチャン(対照)	8.1	8.1	9.6

注) 調査期間: 2021年10月18日~1月7日

調査本数: 各処理区10~15本。莖長40cmに調整した切り花を蒸留水、またはGLA(1%グルコース+イソチアゾリン系防腐剤(商品名: ケーソンCG) 0.5mL/L+硫酸アルミニウム50mg/Lから構成される品質保持剤)が入った花筒に生け、GLA+BA区は植物ホルモンの一つであるベンジルアミノプリン(BA)が含まれる市販の散布液を花卉全体に噴霧後、GLA液に生けた。花卉全体の3分の1に萎凋、褐変が確認される日までの日数を測定。

ダリアは日持ちが短く、消費拡大に向けて日持ち性の向上が求められています。農研機構では、2014年から日持ち性向上を目標に育種が行われ、良日持ち性ダリア エターニティシリーズとしてこれまでに3品種が普及しています。2022年に追加品種として、‘エターニティピーチ’ (写真1)、‘エターニティシャイン’ (写真2)の2品種が品種登録出願されました。花き担当では農研機構からの委託により「良日持ち性ダリア育成システムの系統適応性・特性検定試験」を実施し、本県の冬春期施設栽培の作型における適性を調査しました。

その結果、‘エターニティピーチ’は収穫本数が15.5本/株と対照品種と同等かやや少なく、到花日数は61日で11月以降の収穫となりました。‘エターニティシ

ヤイン’は収穫本数が22.8本/株と多く、到花日数は40日で対照品種の‘かまくら’と同等程度の優れた生産性を示しました。また、2品種とも切り花長は2L規格の70cmを上回っており、露心の発生は見られませんでした(表1)。

日持ち日数は2品種とも対照品種より長く、特に‘エターニティシャイン’は蒸留水でも10日以上日持ちしました(表2)。

以上より、本県の冬春期作型での適合性が明らかとなりました。今年度は県内産地においても栽培が計画されており、品種の普及が期待されます。

(花き担当 下村 文那 088-863-4918)